

経済の伝書鳩
北見市・網走市・美幌町・津別町・
大空町・訓子府町・置戸町に
約84,000世帯配布



学習塾特集

今の自分があるのはあの時... 可能性ある未来を掴むための方法

小・中・高生に特化した
家庭教師の
ワイルズ
QRコード



内申書、内申点の仕組みとは?

- ◎高校合格は内申書も大きく影響
- ◎中学1年生から評価の対象
- ◎テストの成績だけでなく授業態度なども見られる

エフ・ユニット北見支店 高田和良さん

中学時代に学習塾、浪人時代に予備校へ



衣料品販売のエフ・ユニット北見支店店長の高田和良さん(51)は、中学時代の学習塾通いと浪人時代の予備校通いが、苦手の英語克服をはじめ「やればできる」という自信につながったという。

高田さんは十勝管内出身。「子どものころから英語が苦手で、中1の時は帯広で英語の塾に通っていましたが、美幌町に転居したのを機に、中学2年生から数学や国語など他の教科も学べる総合学習塾に切り替えた。

「当時は必死に勉強するという感じではありませんでしたが、塾では予習、学校では復習という学習スタイルが身に付き、学校とは違う環境で学べる楽しさもあって、塾は好きでしたね」と語る。

北見柏陽高校に進学後は塾通いはせず、3年間は学校の勉強のみ。そのまま受験シーズンを迎えたが、勉強不足もあって合格は叶わず札幌の予備校へ。

予備校でも最初の3カ月ほどは、なかなか学習意欲が湧かず、夏に行われた模試は「散々な結果でした」。それがきっかけで学習意欲に火がつき「人生で一番勉強しました」という数カ月を過ごした。

起きている時間はほとんど机に向かい、苦手の英語を中心に勉強漬けの日々を過ごした。

「予備校の先生の教え方が上手で、難しい文法も頭の中が整理されるような感じでスッと入ってきたんです」と高田さん。英単語や文法などは、紙に書いて部屋の壁に貼り付ける方法で覚えたという。

猛勉強の甲斐あってわずか3カ月ほどで学力がみるみる向上。第一志望の大学は難関の1次試験に合格したものの、面接・論文の2次試験は「1次試験の勉強しかしておらず、準備不足でした」と合格は果たせなかった。それでも第2志望の大学は、みごと合格を勝ち取った。

高田さんは「もっと計画的に勉強していれば、という思いもありますが、努力した分、成果が出たことを実感しました」と振り返る。

苦手の英語を克服し、
大学に合格

公立高校の一般入試では5教科(国・数・社・英・理)の学力検査が行われますが、合格、不合格はそれだけで決まるわけではありません。中学校から高校に提出される内申書(調査書)も合否を分ける重要な資料になるのです。

内申書には教科の成績を点数化した「内申点」が記載されます。内申点とは、通知表に1~5の数字で記されている各教科の「評定」を元に算出される点数です。高校入試の5教科だけでなく音楽、美術、技術、保健を合わせた9教科が評価対象になりますので、1学年あたり最大で45点(5×9=45)となります。どの教科も手を抜かず、苦手教科をつくらないことが大切です。

評定は中間テストや期末テストなどの試験の成績が大きな判断基準になりますが、「先生の話に熱心に耳を傾けているか」「ノートをきちんと書いているか」などの授業態度も加味されます。

内申点の計算方法は都道府県によって違いがあります。北海道の場合は1学年から3学年までが対象です。

内申書には内申点のほか、部活動や生徒会活動の状況などの記録、行動の記録なども記載されます。

内申書の評価は中学1年生から始まりますので、なるべくマイナスポイントを作らず、プラスの評価が得られるような成績や学校生活を心掛けましょう。

北海道の内申点の計算方法

中学1年=評定(最大45点)×2、
中学2年=評定×2、
中学3年=評定×3

◎3年間、9教科すべてが5の場合
90(中1)+90(中2)+135(中3)=315点でAランク
◎9教科すべてが3の場合
54+54+81=189点でGランクとなります

ランク	内申点	備考
A	315~296	オール5(315点)
B	295~276	
C	275~256	
D	255~236	オール4(252点)
E	235~216	
F	215~196	
G	195~176	オール3(189点)
H	175~156	
I	155~136	
J	135~116	オール2(126点)
K	115~96	
L	95~76	
M	75~63	オール1(63点)

